

**2023年3月期 第2四半期(上半期)**  
**決算説明会資料**  
(決算短信補足資料)

[2022年11月16日開催]

**SMC株式会社**

# 2023年3月期 第2四半期 決算説明会

2022年11月16日

SMC株式会社

代表取締役社長 高田 芳樹

Supporting Automation



## 2023年3月期第2四半期決算サマリー

円安の追い風もあり、売上高・利益ともに、上期としての過去最高を更新。

各国でCovid-19からの正常化が進み、製造業の設備投資がグローバルに回復。

### <業種別動向>

高水準が続いていた半導体・電機は7月以降、季節性もあり一服感。2次電池は好調を維持。自動車は部品不足による生産影響が継続しているが、中国を中心に回復傾向。

### <エリア別動向>

日本は製造業設備投資は高水準だが、自動車は伸び悩み。北米は利上げ・インフレにより設備投資が減少傾向。欧州は設備投資回復傾向。中華圏は2次電池は高水準継続だが、半導体関連は一服感。EV投資は各地域で活発。

### <株主還元>

上限600億円の自己株式取得を決議

(取得期間：2022年11月～2023年3月)

(単位：億円)

	21/2Q 実績		22/2Q 実績		前年度比 (21/2Q vs 22/2Q)	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	3,586		4,215		628	17.5%
売上原価	1,761	49.1%	2,093	49.7%	331	18.8%
売上総利益	1,825	50.9%	2,121	50.3%	296	16.3%
販売管理費	644	18.0%	785	18.6%	140	21.8%
営業利益	1,180	32.9%	1,336	31.7%	156	13.2%
経常利益	1,260	35.1%	1,807	42.9%	546	43.3%
当期純利益	902	25.2%	1,330	31.6%	427	47.4%
期中平均為替レート						
ドル	109.81		134.06		+24.25	22.1%
ユーロ	130.87		138.81		+7.94	6.1%
人民元	16.98		19.89		+2.91	17.1%
減価償却費	97		121		24	25.2%
研究開発費	112		135		23	20.8%

# 2023年3月期ガイダンス上方修正



通期の業績見通しを当初予想に対して上方修正。為替前提を円安方向へ見直し。下期は、景気減速傾向により上期実績対比で減収減益を見込む。

### <業種別動向>

半導体関連は、各地域で一服感。自動車関連は、半導体不足の解消が進み、2次電池関連への投資が各地域で活発であることから、相応の回復を見込む。

### <エリア別動向>

日本：半導体製造装置は堅調だが、メモリー関連は減速。自動車は半導体不足改善による回復を見込む。

北米：半導体、電機に一服感あり、半導体製造装置メーカーが設備投資延期。2次電池関連投資は活発。

中華圏：半導体・2次電池の受注は好調を維持。医療産業は今後数年間に渡る持続的な成長を見込む。

欧州：EV関連投資が活発。シェアアップを図る。

当社において、半導体・樹脂部品を中心とした部材調達難による生産制約が、引き続きリスク要因。

(単位：億円)	'22年3月期		'23年3月期		'23年3月期	
	実績	前期比増減率	修正ガイダンス	前期比増減率	修正ガイダンス	前期比増減率
売上高	7,273		8,050	+11%	8,240	+13%
内.所在地別海外売上高 [海外売上比率]	5,541 [ 76.2%]		6,211 [ 77.2%]	+12%	6,450 [ 78.3%]	+16%
営業利益 (同率)	2,278 (31.3%)		2,550 (31.7%)	+12%	2,485 (30.2%)	+9%
経常利益	2,729		2,650	▲3%	3,020	+11%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,929		1,880	▲3%	2,200	+14%
期中平均為替レート(ドル)	¥112.39		¥123.00		¥138.00	
(ユーロ)	¥130.55		¥133.00		¥139.00	
(人民元)	¥17.51		¥18.50		¥19.80	
設備投資(有形・無形)	834		1,200	+44%	1,200	+44%
減価償却費(有形・無形)	205		240	+17%	260	+26%
研究開発費	234		250	+7%	270	+15%

# 設備投資の状況



今後の飛躍的な売上拡大へ向けた生産余力の拡大を図ると共に、安心して取引できるサプライヤーとして顧客に認知されるよう生産拠点や開発拠点を多極化するBCP体制づくりを進めている。

### <上期実績>

- 4月 研究開発拠点の移転先用地を取得（千葉県柏市）
- 4月 下妻第2工場完成
- 6月 西日本ロジスティクスセンター完成

### <下期>

- 11月 釜石第5工場、遠野第2工場完成



釜石第5工場



遠野第2工場

(単位：億円)		2022年度計画		22/2Q
用途	地域	計画	案件	実績
製造	国内	162	下妻工場	58
		90	釜石工場	22
		84	遠野工場	19
	125	他	70	169
海外	海外	200	SMC 中国	34
		122	ベトナム製造	38
		18	シンガポール製造	2
		8	SMC インド	4
14	他	3	81	
本社 開発 販社 物流	国内	40	本社	2
		61	技術センター	62
		61	東/西ロジスティクスセンター	38
		28	他	0
海外	海外	59	SMC ドイツ	20
		37	SMC 韓国	0
		16	SMC アメリカ	34
		11	SMC トルコ	7
		10	SMC タイ	3
		53	他	19
		187	他	83
合計		1,200		435

# 2022年度施策と進捗



## SMCの強み

### 競争力ある製品、幅広い品揃え

- 小型軽量高耐久の省エネ製品群
- ライン全体の省エネルギー化提案が可能
- ワンストップでの製品供給が可能

### 顧客を囲い込み、面で勝てるグローバルな営業力

- 80か国以上に約7千人の直販営業人員を配置
- グローバルに蓄積された用途別の豊富な提案力

### 生産・調達ルート多元化、安全なITインフラ

- 部材調達まで遡ったBCP対応の整備
- データセキュリティ対応、データ保有の2重化

### 他社の追従を許さない生産能力、潤沢な在庫

- 設備投資による弛まぬ生産能力拡大
- 短納期を実現する十分な在庫保有

## 2022年度施策の進捗状況

- 1. 製品生産能力の拡大、生産拠点の多極化・BCP対応**
  - 土地建物はほぼ計画通りに投資、機械設備は若干の遅れ
- 2. サプライチェーンの整備、複数購買等のBCP対応**
  - SCM統括部を中心に、部品の安定調達、グローバルベースでのサプライヤーの拡大等を推進
- 3. ITインフラの整備を含めた持続的な製品供給力の構築**
  - データセキュリティ対策：サイバー攻撃からの防御完了
  - データセンター整備：データ保有の冗長化進行中
- 4. ゲームチェンジャーとなる斬新な製品の開発・販売**
  - 「エアマネジメントシステム」を10月に世界同時発売
- 5. 開発体制のグローバル化**
  - 海外技術センターの開発リソースの拡充、拠点数の拡大
  - 取締役技術本部長のドイツ駐在

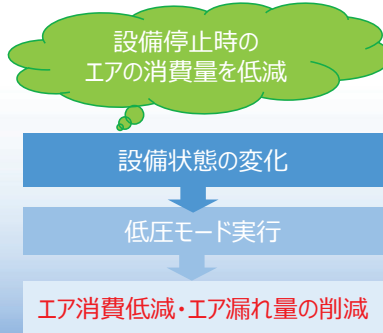
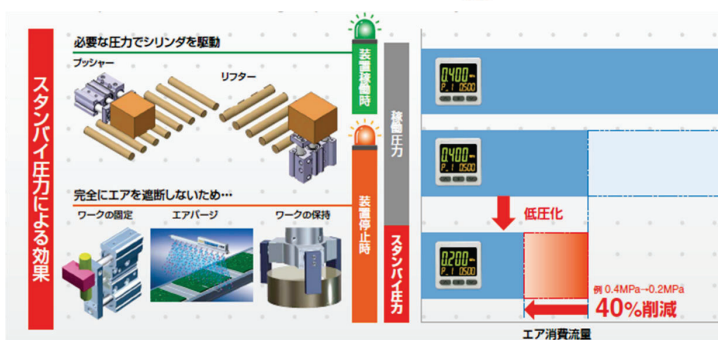
# エアマネジメントシステムについて



生産設備の稼働状況を自動判定し、エア消費量、エア源となるコンプレッサー稼働電力を削減する新製品「エアマネジメントシステム」を10月に世界同時発売。

エアの流量・圧力・温度を測定するセンサーを組み込み、生産設備の稼働状況をモニタリング。生産設備の待機中に、必要最低限の圧力に自動で切り換え、設備の必要機能を維持しながらエア消費量を削減。

無線システムにも対応し、子機を最大10台まで接続可能。



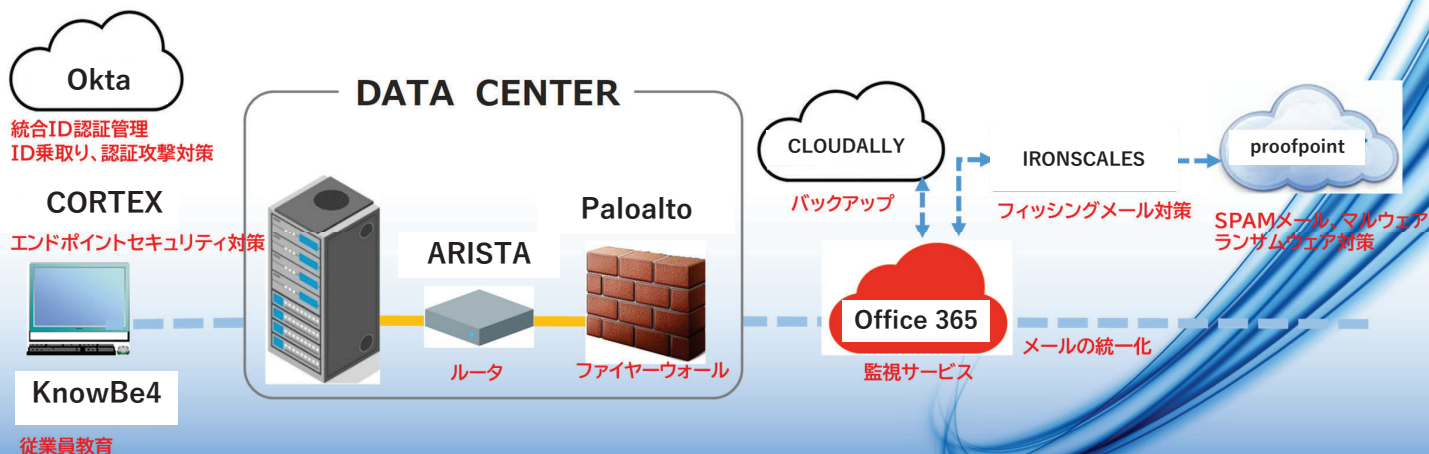


# セキュリティ強化について



グローバルに統一した基盤整備によるセキュリティ強化を、IT先進国である米国子会社を主幹に推進

- データセキュリティ強化：サイバー攻撃の阻止、自動検知、監視体制の強化
- データセンター化による、冗長化、災害復旧体制の構築（BCP対応）  
世界11カ所にデータセンターを設置



# サステナビリティの取り組み



## 2021年度

取締役会の諮問機関として「サステナビリティ委員会」を設置  
 メンバー：社外取締役2名 + 代表取締役社長  
 委員長：宮崎社外取締役

「エコファクトリー推進室」を新設  
 カーボンニュートラルに向け、GHG排出量削減、再生可能エネルギー導入などを推進

## 2022年度

6月 TCFDへの賛同を表明

12月 「サステナビリティレポート2022」発行予定（英文版は2023年1月）  
 2050年カーボンニュートラルに向け、2030年のGHG排出量削減目標達成に向けたロードマップを開示(Scope 1 + 2)





**Supporting Automation**

# 2023年3月期 第2四半期 決算説明資料

2022年11月16日

SMC株式会社

取締役執行役員経理部長 太田 昌宏

Supporting Automation



## 損益計算書推移

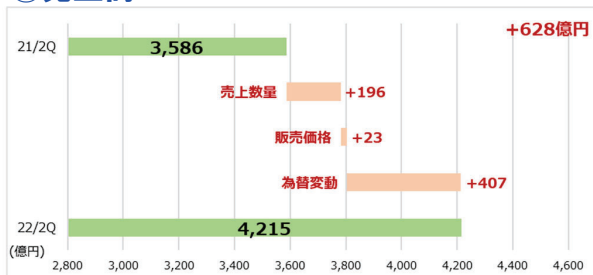
(億円)

	21/2Q 実績		22/2Q 実績		前年度比 (21/2Q vs 22/2Q)		22年度 業績予想		22年度 1Q単独		22年度 2Q単独		前四半期比 (22/1Q vs 22/2Q)	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	率	金額	達成率	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	3,586		4,215		628	17.5%	8,050	52.4%	2,113		2,101		-11	-0.6%
売上原価	1,761	49.1%	2,093	49.7%	331	18.8%	4,020	52.1%	1,059	50.1%	1,033	49.2%	-25	-2.4%
売上総利益	1,825	50.9%	2,121	50.3%	296	16.3%	4,030	52.7%	1,054	49.9%	1,067	50.8%	13	1.3%
販売管理費	644	18.0%	785	18.6%	140	21.8%	1,480	53.1%	374	17.7%	411	19.6%	36	9.9%
営業利益	1,180	32.9%	1,336	31.7%	156	13.2%	2,550	52.4%	679	32.2%	656	31.2%	-23	-3.4%
経常利益	1,260	35.1%	1,807	42.9%	546	43.3%	2,650	68.2%	1,040	49.2%	767	36.5%	-272	-26.2%
当期純利益	902	25.2%	1,330	31.6%	427	47.4%	1,880	70.8%	754	35.7%	576	27.4%	-177	-23.5%
期中平均為替レート														
ドル	109.81		134.06		+24.25	22.1%	123.00		129.72		138.54		+8.82	6.8%
ユーロ	130.87		138.81		+7.94	6.1%	133.00		138.24		139.40		+1.16	0.8%
人民元	16.98		19.89		+2.91	17.1%	18.50		19.60		20.20		+0.60	3.1%
減価償却費	97		121		24	25.2%	240	50.8%						
研究開発費	112		135		23	20.8%	250	54.3%						

## 【FY21/2Q vs FY22/2Q】売上高・営業利益増減要因

(億円)

### ①売上高



< 売上数量 > 前年度比5%増加  
 日本+26 (+3%) 北米+20 (+4%) 欧州+53 (+9%)  
 中華圏+38 (+4%) 他アジア+51 (+10%)

< 販売価格 > 前年度比0.6%上昇  
 日本+2、海外+21 需給逼迫に伴う売価上昇

< 為替変動 > 前年度比11%増加  
 中華圏 (人民元中心) +181、北米 (米ドル中心) +116、  
 他アジア (韓国円他) +66、欧州 (ユーロ中心) +29

### ②営業利益



< 為替変動 >  
 ・取引 (外貨輸出・仕入) 要因 +94  
 ・決算 (海外子会社P/L換算) 要因 +89

< 在庫評価減 >  
 部品在庫の先行仕入および海外での製品在庫積み増しによる回転率低下

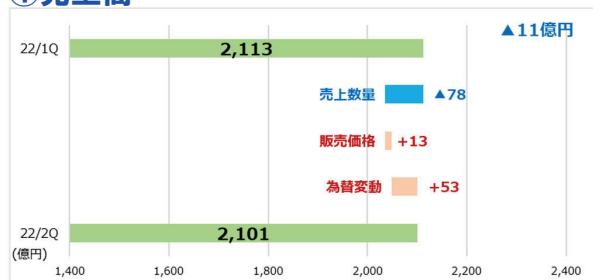
< 操業度 >  
 生産物量増加による操業度改善を超える原材料費・労務費の増加により原価率悪化

< 販管費 >  
 人件費-27、運賃荷造費・配送業務費-25、支払手数料-21、広告宣伝費-5

## 【FY22/1Q vs FY22/2Q】売上高・営業利益増減要因

(億円)

### ①売上高

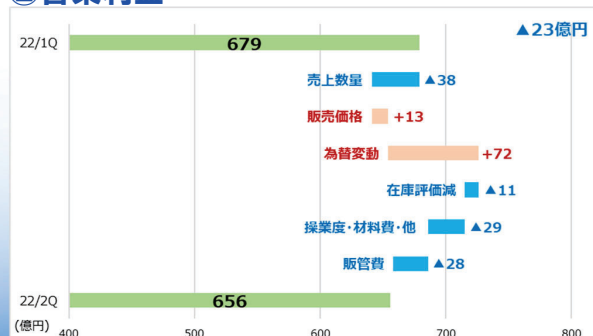


< 売上数量 > 1Q比4%減少  
 日本-5 (-1%) 北米-21 (-7%) 欧州-6 (-2%)  
 中華圏-28 (-5%) 他アジア-18 (-6%) 他+2 (+7%)

< 販売価格 > 1Q比0.6%上昇  
 日本-5、海外+18 需給逼迫に伴う売価上昇

< 為替変動 > 1Q比3%増加  
 北米 (米ドル中心) +20、中華圏 (人民元中心) +19、  
 他アジア (SGドル他) +8、欧州 (ユーロ中心) +4

### ②営業利益



< 為替変動 >  
 ・取引 (外貨輸出・仕入) 要因 +60  
 子会社在庫に含まれる外貨建未実現利益が36億円実現  
 ・決算 (海外子会社P/L換算) 要因 +12

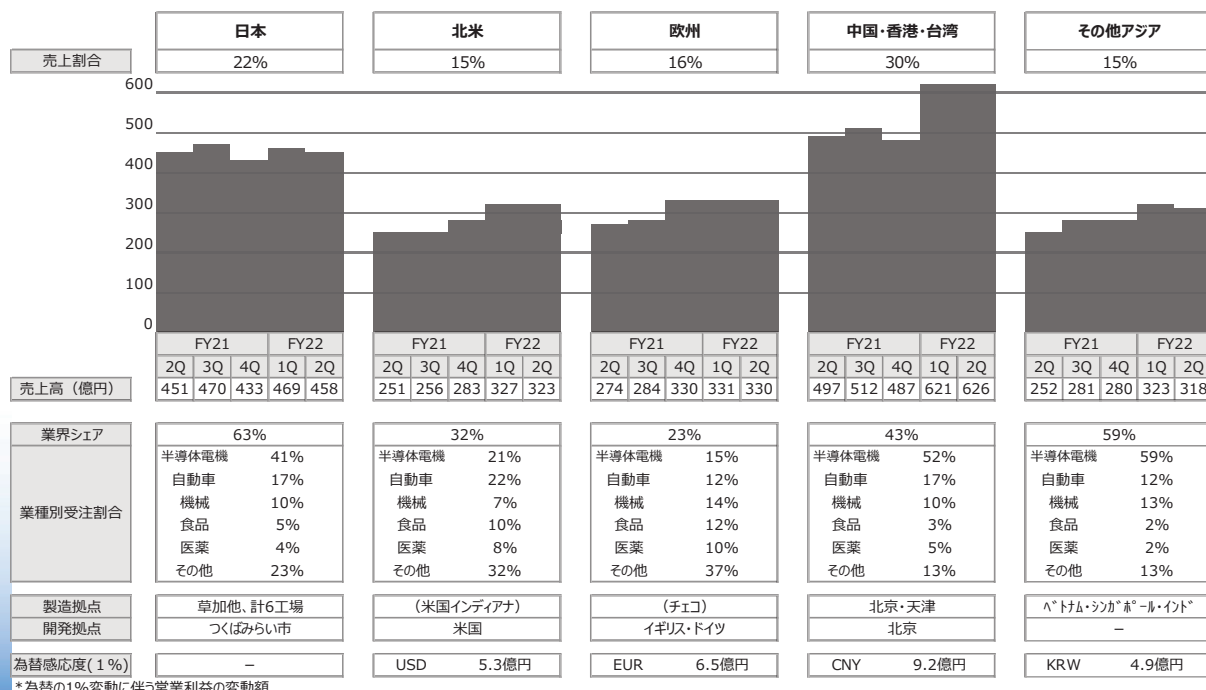
< 在庫評価減 >  
 部品の先行仕入による在庫回転率低下

< 操業度 >  
 生産物量増加による操業度改善を超える原材料費・労務費の増加により原価率悪化

< 販管費 >  
 人件費-11、運賃・配送業務費-2



## 【四半期】所在地別売上推移



## 連結貸借対照表推移

(億円)	21年度	22/2Q	前年度末比増減	
資産	17,699	19,632	1,933	10.9%
流動資産	12,584	13,537	953	7.6%
(内 ①現預金)	(6,848)	(7,051)	(202)	3.0%
(内 営業債権)	(2,119)	(2,357)	(237)	11.2%
(内 ②有価証券)	(122)	(143)	(20)	17.2%
(内 棚卸資産)	(3,035)	(3,672)	(637)	21.0%
固定資産	5,115	6,095	979	19.2%
(内 ③市場価格のある投資有価証券)	(438)	(977)	(539)	123.1%
(内 ④保険積立金)	(1,507)	(1,463)	(-44)	-2.9%
*換金性のある資産 ①+②+③+④	8,916	9,635	718	8.1%
負債	2,106	2,307	200	9.5%
流動負債	1,694	1,925	231	13.7%
(内 営業債務)	(621)	(713)	(92)	14.9%
固定負債	412	381	-31	-7.6%
純資産	15,592	17,325	1,732	11.1%
自己資本比率	87.9%	88.1%	+0.2	
1株当たり純資産(円)	23,808	26,459	+2,651	
ROE	13.2%	8.1%		

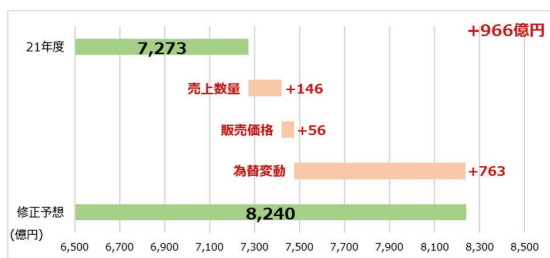
	21年度	22/2Q	前年度末比
棚卸資産合計	3,035	3,672	637
商品及び製品	1,308	1,526	218
仕掛品	255	288	32
原材料及び貯蔵品	1,471	1,857	385
為替の影響			163
在庫評価減の影響			-24
<b>実質増減</b>			<b>500</b>
期中平均月商倍率	5.0	5.2	0.2
期末月商倍率	4.6	5.0	0.4
期末為替レート			
ドル	122.41	144.81	+22.40
ユーロ	136.77	142.32	+5.55
人民元	19.26	20.37	+1.11

## ガイダンスの修正

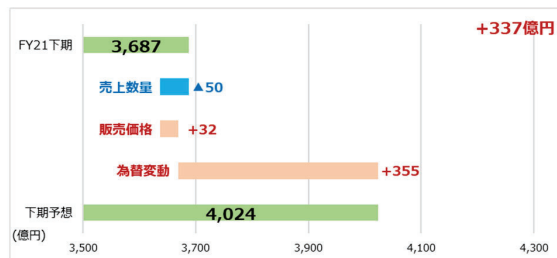
(単位：億円)	'22年3月期	'23年3月期		'23年3月期	
	実績	期初ガイダンス	前期比増減率	修正ガイダンス	前期比増減率
売上高	7,273	8,050	+11%	8,240	+13%
内.所在地別海外売上高 [海外売上比率]	5,541 [ 76.2%]	6,211 [ 77.2%]	+12%	6,450 [ 78.3%]	+16%
営業利益 (同率)	2,278 (31.3%)	2,550 (31.7%)	+12%	2,485 (30.2%)	+9%
経常利益	2,729	2,650	▲3%	3,020	+11%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,929	1,880	▲3%	2,200	+14%
期中平均為替レート(ドル)	¥112.39	¥123.00		¥138.00	
(ユーロ)	¥130.55	¥133.00		¥139.00	
(人民元)	¥17.51	¥18.50		¥19.80	
設備投資(有形・無形)	834	1,200	+44%	1,200	+44%
減価償却費(有形・無形)	205	240	+17%	260	+26%
研究開発費	234	250	+7%	270	+15%

## 【修正ガイダンスの前年度比較・前年度下期比較】

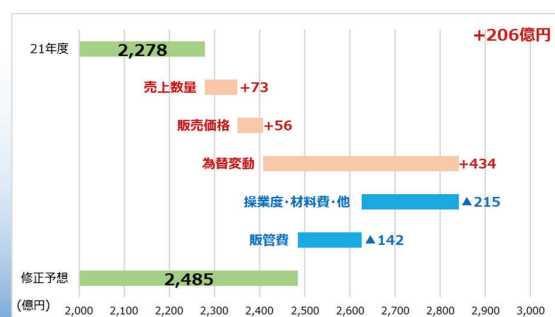
### 【前年度比】売上高増減要因



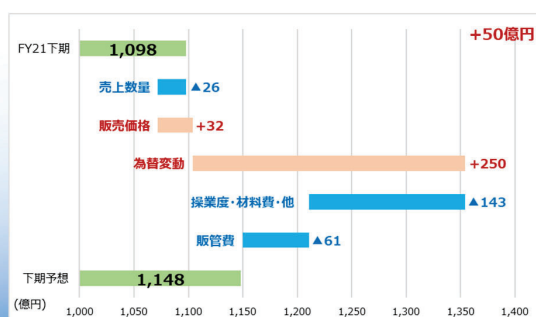
### 【下期対比】売上高増減要因



### 【前年度比】営業利益増減要因



### 【下期対比】営業利益増減要因



## 自己株式の取得について

【2022年11月14日 取締役会決議】

- ▶ 取得価額の総額 600億円（上限）
- ▶ 取得期間 2022年11月21日から2023年3月24日まで

【過去3期間の株主還元】

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
1株当たり配当金	500円	750円	900円
配当総額	331億円	492億円	588億円
配当性向	27.3%	25.7%	26.5%
自己株式の取得額	285億円	499億円	600億円
総還元性向	50.6%	51.4%	53.8%

## 足元の受注動向（FY21=100）

		FY22	'22/1Q	'22/2Q	'22/10	10月の状況
連 結	電機	107	121	97	96	中国が増加傾向
	自動車	110	114	107	104	ドイツ・韓国が増加傾向
	工作機械	100	108	94	94	韓国が増加、中国が減少傾向
	食品	98	103	94	98	すべての地域で減少傾向
	医療	104	112	96	99	アメリカ・フランスが増加傾向
	その他	105	105	101	103	
日本		97	101	93	97	電機・工作機械が弱含み・自動車が減少
北米		97	105	92	83	医療が増加、工作機械が減少傾向
欧州		108	114	98	118	自動車・医療が堅調に推移
中華圏		112	127	100	100	電機・自動車が堅調に推移
その他アジア		101	109	97	88	電機が弱含み
連結		104	113	96	98	





## シェアの動向



	'17	'18	'19		'20	'21
Rate(¥/\$)	(110.85)	(110.92)	(108.71)		(106.12)	(112.39)
<b>国内</b>	65	65	65		65	63
<b>北米</b>	25	26	26		27	32
<b>欧州</b>	21	22	22		24	23
<b>アジア/オセアニア</b>	48	47	47	⇒ <b>中華圏 その他アジア</b>	41	43
<b>世界計</b>	36	37	37		38	39
<b>世界計</b> (¥/\$:112.39)	37	37	37		38	39

※ 中華圏: 中国、台湾、香港

※ シェアは当社予想。FY21は確定値。



本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

そのため、実際の業績はさまざまな複合的要素により、記載された見通しとは大きく異なる結果となり得ることを、予めご承知おさください。

ご清聴ありがとうございました。

**Supporting Automation**

